

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

【参考聖書箇所】ルカによる福音書 23 章 32 節—56 節

³²ほかに、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。³³「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。…³⁶兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、³⁷言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」³⁸イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。³⁹十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」⁴⁰するともう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。⁴¹我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」⁴²そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときは、わたしを思い出してください」と言った。⁴³するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と言われた。⁴⁴既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。⁴⁵太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。⁴⁶イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。⁴⁷百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言った。⁴⁸見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。⁴⁹イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちは遠くに立って、これらのことを見ていた。⁵⁰さて、ヨセフという議員がいたが、善良な正しい人で、同僚の決議や行動には同意しなかった。ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいたのである。⁵²この人がピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようにお願い出て、⁵³遺体を十字架から降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られたことのない、岩に掘った墓の中に収めた。⁵⁴その日は準備の日であり、安息日が始まるうとしていた。⁵⁵イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスの遺体が納められている有様とを見届け、⁵⁶家に帰って、香料と香油を準備した。

婦人たちは、安息日には掟に従って休んだ。

【次回の大学礼拝】2018年11月13日（火）10時40分

次回の礼拝は KNOW GOSPEL による LIVE です。一緒に歌ったり踊ったりするのも歓迎します。お楽しみに！！

【前回の大学礼拝】2018年10月30日（火）

学生 191名 教職員ほか 13名 合計 204名

前回は秋季キリスト教教育強調週間ということで宮城学院女子大学教授の新免貢先生にお話しいただき、礼拝後茶話会も行われました。茶話会では講師と学生・教員が交流のときを持つことができました。

【大学礼拝週報】2018年度 第22号（後学期第7号）

2018年11月6日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 高橋優子（キリスト教学教員）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「我らみな、ひとりの神を信ず」（J. C. バッハ作曲）

讃美歌 讃美歌 30 番（あさかぜしずかにふきて）

聖 書 ルカによる福音書 24 章 1-12 節

祈 り

さん び

酪農学園大学聖歌隊

奨 励 「ピーター・ラビットとキリスト教？」

高橋優子（獣医学類獣医倫理学研究室准教授）

報 告

讃美歌 讃美歌 539 番（あめつちこぞりて）

後 奏 「イエス・キリストをほめたたえよ」（パッヘルベル作曲）

【本日の聖書】ルカによる福音書 24 章 1-12 節

¹そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。²見ると、石が墓のわきに転がしてあり、³中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。⁴そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。⁵婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。⁶あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。⁷人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」⁸そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。⁹そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。¹⁰それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちは、これらのことを使徒たちに話したが、¹¹使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。¹²しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと、亜麻布しかなかったので、この出来事に驚きながら家に帰った。